

宿泊

❁ 多様な宿泊ニーズへの対応

大会時には、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会、国際競技連盟、スポンサー、報道関係者などの大会関係者が世界中から来訪します。これら大会関係者の宿泊施設として、会場周辺に多数の客室を確保します。

国内外から多数の観光客が訪れる国内有数の観光都市である札幌市では、30,000室以上の多様な客室を備えており、来訪する多数の大会関係者を収容する能力を有しています。

また、多くの大規模イベントや国際スポーツイベントを受け入れてきた経験を活かし、大会関係者や観客の多様なニーズに応えるおもてなしを提供します。

大会開催を契機とした共生社会の実現に向けて、大会を通して来訪する多数の車いす利用者を迎え入れられるよう、宿泊施設のバリアフリー化を促進する取組を進めます。



輸送

❁ 誰にとっても快適な移動環境の提供

選手等大会関係者については、専用車両を用いた輸送システムの導入や輸送ルートの設定等により、各拠点と競技会場・非競技会場間の円滑かつ安全な移動環境を提供します。

大会に使用する車両は燃料電池自動車 (FCV) や電気自動車 (EV) 等のゼロエミッション自動車を積極的に導入し、環境負荷の低減を図ります。

観客については、公共交通ネットワークの活用や競技会場と交通拠点を結ぶシャトルバスの運行等により、円滑な輸送を行います。また、駅や経路のバリアフリー化を進め、あらゆる方が利用しやすい環境整備を進めます。

交通手段の転換や、日時・経路の変更により過度な交通需要の集中を防ぎ、交通混雑の緩和を実現する交通需要マネジメント(TDM)の推進やICTの活用により、大会関係者や観客の移動に伴う交通混雑を緩和し、円滑な大会運営と市民生活への影響軽減を図ります。





大雪対策

❁ 安全・安心な除排雪体制の確保

札幌市は、人口190万人を超える大都市でありながら、年平均降雪量が5m近くにもなる世界でもまれにみる豪雪都市のため、必要な除排雪の体制を確保し、市民生活を支えてきました。

令和3年の冬には、想定を大きく上回る大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が及びました。この経験を踏まえ、関係機関や関係団体等との協議を重ね、「排雪作業の早期対応や強化」、「雪堆積場等の増強」など大雪時の対策を取りまとめたところです。

大会の開催にあたっては、市民生活への影響が生じないよう冬期における安全・安心な道路環境を確保するとともに、これまで積み重ねてきた経験を活かし、円滑な大会運営を実現できるよう、大会組織委員会、国、関係自治体等が連携し、除雪体制を整えます。



セキュリティ

❁ 東京2020大会等の知見を活かした安心・安全な大会の実現



©写真:ロイター/アフロ

大会の開催にあたっては、日本全国から警備員を動員するほか、警察や自衛隊の協力を受けながら万全の警備体制を敷き、安心安全な競技実施や観戦を保証します。

大会組織委員会内にセキュリティ対策本部を設置し、警備に関する政府や自治体の関係機関と相互に連携しながら、テロなどの重大事件の未然防止や大規模災害等への迅速な対応を図ります。

また、東京2020大会をはじめとする過去の大規模イベントの知見を踏まえ、セキュリティに係る方針・戦略を策定します。

近年、オリンピック・パラリンピックは世界中からサイバー攻撃の標的となっており、今後の大会においても増え続けることが予想されています。過去大会等を参考に専門の部署を設け、万全のサイバーセキュリティ対策を実施します。

医療・アンチドーピング

❁ 地域医療と連携した高度な大会医療体制

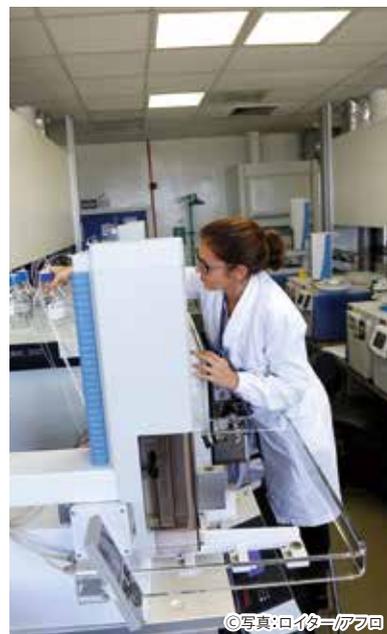
選手村や各競技会場に医務室を設置し、受診を希望する観客及びアスリートに対して十分な医療サービスを提供します。

大会期間中、各国選手団が自国チームドクターの治療や診療を受けることができる体制を整え、サービスレベルの向上に努めるとともに、複数の大会指定病院を設定し有事の対応に備えます。

また、医療機関との連携を密に行い、地域医療への影響が及ばないように配慮します。

世界アンチ・ドーピング規定に基づき、WADA(世界アンチドーピング機構)の認定分析機関においてドーピング検査を厳格に実施し、クリーンでフェアな大会を実現します。

大会を通じてアンチドーピング活動を推進し、クリーンスポーツに係る教育活動の展開・導入や人材育成を図ります。



不測の事態への備え

❁ 適切なリスクマネジメントの実施

大会開催に向け、リスク検討専門のチームを編成し、地震などの自然災害や暖冬・少雪などの気象状況の悪化、テロ・犯罪・交通事故等の人為災害など、大会中に起こりえる様々なリスクを洗い出し、事前に防止策や対応策の検討を行います。

新型コロナウイルスのような感染症が流行した場合には、東京2020大会の経験を参考に、基本的な感染防止対策を徹底するとともに関係者同士の接触を控えるように動線を分離する(バブル方式)など状況に応じて適切な対策を実施します。

大会の運営に大きな影響を及ぼす地震等の自然災害に備え、事前訓練の実施や防災管理等の取組を実施することにより、発生時の被害を最小化を図ります。

また、予期することのできない事象が発生した場合にも対応できるよう、大会運営費に予備費を計上します。



式典・文化

❁ 地域社会への関与、文化・教育プログラム

美術、音楽、演劇、先住民族であるアイヌの伝統文化など、北海道・札幌の特色ある文化や芸術を、国際芸術祭をはじめとした各種文化プログラムを通じて世界に発信していきます。また、東京2020大会での取組を継承し、オリンピック・パラリンピック教育や事前合宿、ホストタウン活動で訪れたオリンピック・パラリンピアンとの交流など、子どもたち一人一人の心と体に残る、かけがえのないレガシーを創出します。

聖火リレーの実施は北海道・札幌の雄大な自然や景勝地、文化やそこに暮らす人々の暮らしを全世界に発信できる絶好の機会となるため、他の自治体や市民と協力して「札幌にしかできない聖火リレー」を実現します。

加えて、例年2月上旬には札幌を代表するイベント「さっぽろ雪まつり」が開催されており、「オリンピック・パラリンピック×雪まつり」といった、既存イベントとの連動による、札幌ならではの賑わいの創出も検討していきます。

